

キルケゴールの教育倫理学

目次

序 章 キルケゴールにおける人間存在と教育…………… 3

第一節 実存哲学と教育 5

一 思想研究と教育 5

二 研究方法と課題 7

第二節 実存理解の特質 12

一 主体性の真理 13

二 主体性の伝達 18

第I章 キルケゴールにおける自己生成の契機…………… 24

第一節 懐疑と自己生成 25

一 懐疑の成立 27

二 懐疑の特質 29

三 懐疑の深化 34

補 懐疑の契機 44

第二節 絶望と自己生成 47

一 自己と生成 48

二 絶望の特質 52

三 絶望の深化 56

第二章 キルケゴールにおける自己生成の構造……………64

第一節 自然と自己生成 65

一 自然の認識 67

二 自然と人間 74

第二節 歴史と自己生成 81

一 飛躍と瞬間 81

二 生成と歴史 86

三 歴史と自然 89

第三章 キルケゴールにおける自他関係の原理……………97

第一節 単独者への批判 99

一 自己関係と他者 101

二 公的存在と大衆 104

第二節 単独者の社会性 108

一 隣人愛の義務性 109

補節 二 単独者の社会性 114
 カントにおける隣人愛 119

一 道徳法則と定言命法 120
 二 義務と良心 121

第IV章 キルケゴールにおける間接伝達の背景……………132

第一節 間接伝達の成立 132

一 間接伝達の契機 133
 二 間接伝達の目的 143

第二節 実存の三領域説 149

一 審美的実存の特質 151
 二 倫理的実存の特質 154
 三 宗教的実存の特質 158

第V章 キルケゴールにおける間接伝達の実相……………167

第一節 イロニーの機能 168

一 ソクラテス理解 168

結 章 キルケゴールの教育としての実存伝達

第一節 人間理解と教育 252

一 教育倫理学 252

二 自己生成論 254

三 自他関係論 255

四 間接伝達論 256

第二節 実存伝達と教育 258

一 自己教育論 258

二 教育関係論 259

二 イロニーの源流 193

三 イロニーの限界 198

第二節 フモールの機能 203

一 フモールの成立 204

二 フモールの意義 217

補 節 ソクラテスの論駁法 226

一 真理の探究 226

二 人間の吟味 233

三	教育方法論	261
四	教育倫理学	263

参考文献	265
------	-----

あとがき	273
------	-----